

Unica JourneyV12.1.0インストールガイド



Contents

Chapter 1. インストールの概要	3
インストーラーの機能.....	3
インストールのモード.....	3
Chapter 2. Unica Journeyのインストールを計画する	4
前提条件.....	4
配置図.....	8
Unica Journey インストール・ワークシート.....	8
順序のインストールUnica Journey.....	12
Journey Oracle 12Cデータベースサポート.....	13
Chapter 3. Unica Journeyのデータソースを作成する	14
Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成.....	15
JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する.....	15
JDBC 接続を作成するための情報.....	17
Chapter 4. インストールしていますUnica Journey	22
GUI モードを使用した Unica Journey のインストール.....	23
コンソールモードによるUnica Journey のインストール.....	29
Chapter 5. 配置後の Unica Journey の構成	31
Unica Journeyプロパティを構成する.....	31
開始と検証のUnica Journeyインストール.....	37
Unica 製品との統合のためのプロパティの設定.....	38
Journey Proxy 統合.....	39
データベースの変更.....	40
Chapter 6. Unica Journey アプリケーションのデプロイメント	42
Apache Tomcat アプリケーションサーバーにUnica Journey を配置する。.....	42
WebSphere上にUnica Journeyを展開するためのガイドライン.....	43
JBossにUnica Journeyをデプロイするためのガイドライン.....	46
Chapter 7. のアンインストールUnica Journey	48

Chapter 1. インストールの概要

```
HCL Unica#####HCL Unica#####  
#####
```

インストーラーの機能

```
## Unica #####Unica Journey##  
##### Unica#####Unica Journey#####
```

Unica スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する前に、以下のガイドラインを確認してください。

- Unicaのインストーラーと製品インストーラーは、製品をインストールするコンピューターの同じディレクトリにある必要があります。製品インストーラーの複数のバージョンが、Unicaインストーラー、Unicaインストーラーは、常に最新バージョンの製品を表示します。Unicaインストールウィザードの製品画面。
- をインストールした直後にパッチをインストールする場合は、Unica製品の場合、パッチインストーラーがスイートおよび製品のインストーラーと同じディレクトリにあることを確認してください。
- デフォルトの最上位ディレクトリUnicaインストールはUNIX™の場合は/HCL/Unica、Windows の場合はC™:\HCL\Unicaです。ただし、このディレクトリはインストール時に変更できます。

インストールのモード

```
[Unica Suite ##### GUI ##### X ##### (#####) #####  
##Unica Journey #####
```

GUI X ウィンドウシステムモード

```
Windows™#### GUI ##### UNIX™#### X Window System #####Unica Journey##### ####  
#####
```

UNIX™ X ウィンドウ システム モード

```
UNIX™# X Window System #####Unica Journey##### ####
```

コンソール・モード

```
##### Unica Journey #####
```



Note: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

Chapter 2. Unica Journeyのインストールを計画する

Unica Journey#####

前提条件

Unica Journey #####
#####

システム要件

#####

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる Unica 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザユーザー制限に準拠するためです。



Note: Unica JourneyおよびUnica Link のインストールは、アプリケーションの URL にドメイン名を指定して行う必要があります。

JVM の要件

Unica#####Java™#####JVM#####Unica####Web#####
#JVM#####

知識要件

Unica #####operating systems (OS)#####
##Kafka#Web#####

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーで Web ページをキャッシュしない。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理権限。



Note: 管理者は、テーブルとビューの両方について、`CREATE`、`SELECT`、`INSERT`、`UPDATE`、`DELETE`、`DROP`の権限を持っている必要があります。

- WebアプリケーションサーバーとUnicaコンポーネントを実行するために使用するオペレーティングシステムアカウントの関連ディレクトリとサブディレクトリへの読み取りと書き込みのアクセス権。
- 編集が必要なすべてのファイルに対して書き込み権限を与える。
- アップグレードする場合は、インストールディレクトリやバックアップディレクトリなど、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリに対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、および実行のアクセス許可。

Web #####

UNIX#™ #####`rwxr-xr-x`の#####

UNIXの™場合は、さらに以下のパーミッションが必要です。

- Unica Journey および Unica Platform をインストールするユーザー・アカウントは、Unica Journey ユーザーと同じグループのメンバーである必要があります。このユーザーアカウントには、有効なホームディレクトリがあり、そのディレクトリへの書き込み権限が必要です。
- HCL Unica 製品のインストーラーファイルはすべて、`rwxr-xr-x`などのフルパーミッションである必要があります。

導入前の注意点Unica Journey

Unica Journey #####

JAVA_HOME 環境変数

Unica #####`JAVA_HOME`##### `JRE` #####
#####

`JAVA_HOME`#####`JRE`#####Unica #####`JAVA_HOME`#####

以下のいずれかの方法で、環境変数`JAVA_HOME`をクリアすることができます。

- Windowsの™場合: コマンドウィンドウで、`set JAVA_HOME= (空のまま)`と入力し、**Enter**キーを押します。
- UNIX™: ターミナルで、`export JAVA_HOME= (空のまま)`と入力し、**Enter**キーを押します。

#####`JAVA_HOME`#####

`export JAVA_HOME= (###)`

Unica #####Unica ##### JRE ##### Unica #####JRE ##
#####Unica#####JRE#####
#####

####JRE#####

Unica Platform要件

#####Unica Platform#####
#####Unica Platform # 1 #####
#####Unica Platform #####Unica Platform #####Unica Platform #####
>

Platform#Journey#####Platform#####Journey#####
Platform#URL#####Journey#####Unica#####
#####

Table 1. Journeyサポートインストールパス

ベースJourneyバージョン	アップグレード・パス	実行するタスク
Unica Journey 12.1.0 または 12.1.0.x (Oracle, MS SQL Server, OneDB, MariaDB 上のシステムテーブルを使用)	Unica Journey 12.1.1へのインプレースアップグレード。	<ol style="list-style-type: none"> Unica Marketing Platformを12.1.1にアップグレードする。 Unica Journeyを12.1.1にアップグレードするインストーラーを実行します。 Journeyアプリケーションの設定 Journeyアプリケーションのデプロイ Journeyアプリケーション実行します
OneDB、MariaDB、SQL Serverなどのシステムテーブルがある場合、既存のUnica環境にJourneyをクリーンインストールします。	Unica Journey 12.1.1へのインプレースアップグレード。	<ol style="list-style-type: none"> ジャーニーを除く、Unica Marketing Platformおよび必要なUnica製品を12.1.1にアップグレードします。 Unica Journey 12.1.1のクリーンインストーラーを実行します。 Journeyアプリケーションの設定

Table 1. Journeyサポートインストールパス (continued)

		4. Journeyアプリケーションの デプロイ 5. Journeyアプリケーション実 行します
--	--	--

**Note:**

1. Oracleデータベースを持つ既存のUnica環境にJourneyがインストールされていない場合、Journeyバージョン12.1.0をインストールした後、Unica Journeyを12.1.1にアップグレードする必要があります。
2. MS SQL Server、OneDB、MariaDBのいずれかのデータベースを持つ既存のUnica環境にJourneyがインストールされていない場合、Journeyバージョン12.1.1をクリーンインストールとして直接インストールすることが可能です。

```
#####Journey###DB#####DB#####
```

MariaDB# #####

```
Journey_SystemDB).* ##### '{Journey_Reports_User}'@%' #'{Journey_Reports_User_Password}' #####  
####
```

```
GRANT ALL ON {Journey_SystemDB}.* TO '{Journey_Reports_User}'@'%';
```

```
Journey_SystemDB_User_Password)' ##### '{Journey_SystemDB_User}'@%' # {Journey_ReportsDB}.* #####  
#####
```

```
GRANT ALL ON {Journey_ReportsDB}.* TO '{Journey_SystemDB_User}'@'%';
```

Oracle###

Oracleデータベースの場合、システムユーザアカウントとReportスキーマを作成するためのReportユーザを作成します。システム・ユーザー・アカウントには、以下の権限がなければなりません。

- CREATE TABLES
- CREATE VIEWS (レポート用)
- CREATE SEQUENCE (Oracle のみ)
- CREATE INDICES
- ALTER TABLE
- INSERT
- UPDATE
- DELETE



Note: レポートユーザーも上記の権利を有します。また、レポートユーザーは、システムユーザーにレポートスキーマテーブルへのアクセス権限を付与する必要があります。以下のコマンドを実行します。

GRANT ALL PRIVILEGES TO (SYSTEM_SCHEMA_USER_NAME)

#####Unica Journey#####30### (on page 42)#####

Journeyのための分散環境。

Journey#####Journey#####Web#####Journey#####
#####/#####

配置図

#####Unica#####Unica Journey.Unica Journey#####Unica Platform#####
###Unica#####

Unica JourneyWeb コンポーネントとエンジン コンポーネントは、同じマシンまたは異なるマシンに展開できません。Unica Journey製品には以下のコンポーネントがあります:

1. Unica JourneyWeb
2. Unica Journeyエンジン
3. 基本的な通信に使用されている Kafka インスタンス。Kafka インスタンスには、kafka サーバーと Zookeeper があります

##Journey###Journey##### HCL #####
#####

Unica Journey インストール・ワークシート

Unica Journey #####Unica Journey #####Unica ##### Unica
Journey #####

#####Unica Journey #####Unica Journey #####
#####

Table 2. 対応なデータベース

2 ##### 1 ##### 2 #####
#####

###2#####

フィールド	メモ®
データベース・タイプ	
データベース名	
データベース・アカウント・ユーザー名	
データベース・アカウント・パスワード	
JNDI 名	JourneyDS, JourneyReportDS
ODBC 名	

Table 3. Kafkaインスタンスに関する情報

既存のKafkaインスタンスを使用する場合、以下の情報を収集する必要があります。

フィールド	メモ
Kafkaサーバーのホスト	
Kafkaサーバーのポート	
Kafkaサーバー証明書 (KafkaがSSLを有効にしている場合)	
Kafkaサーバー - ユーザーID (Kafka接続がSASLプレーンテキストの場合)。	
Kafkaサーバー - ユーザーパスワード (Kafka接続がSASLプレーンテキストの場合)。	

Oracle

- データベースドライバ: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- デフォルトのポート: 1521
- ドライバークラス: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- ドライバURL: `"jdbc:oracle:thin:@<Host>:<Port>:<SID_NAME>"`

```
<?xml version="1.0"?> <Context docBase="<Journeys_Install_Path>/Web/journey.war"> <Environment
name="journey.web.home" value="<Journeys_Install_Path>/Web/" type="java.lang.String"/> <Resource
name="JourneyDS" type="javax.sql.DataSource" factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory"
maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000" username="<your_db_user_name>"
password="<your_db_user_password>" driverClassName="oracle.jdbc.OracleDriver"
url="jdbc:oracle:thin:@<Host>:<Port>:<SID_NAME>"/> <Resource name="JourneyReportDS"
type="javax.sql.DataSource" factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory" maxActive="30"
maxIdle="10" maxWait="10000" username="<your_db_user_name>" password="<your_db_user_password>"
driverClassName="oracle.jdbc.OracleDriver" url="jdbc:oracle:thin:@<Host>:<Port>:<SID_NAME>"/> </Context>
```

SQL####

- #####:com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- #####: 1433
- #####com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- #####URL: jdbc:sqlserver://<your_db_host>\
 \<named_instance>:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>
- #####user=<ユーザー名>の追加

```
<?xml version="1.0"?> <Context docBase="<Journeys_Install_Path>/Web/journey.war"> <Environment
name="journey.web.home" value="<Journeys_Install_Path>/Web/" type="java.lang.String"/> <Resource
name="JourneyDS" type="javax.sql.DataSource" factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory"
maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000" username="<your_db_user_name>"
password="<your_db_user_password>" driverClassName="com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver"
url="jdbc:sqlserver://<your_db_host>\\<named_instance>:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>"/>
<Resource name="JourneyReportDS" type="javax.sql.DataSource"
factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory" maxActive="30" maxIdle="10"
maxWait="10000" username="<your_db_user_name>" password="<your_db_user_password>"
driverClassName="com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver"
url="jdbc:sqlserver://<your_db_host>\\<named_instance>:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>"/>
</Context>
```

OneDB#####

- #####:com.informix.jdbc.IfxDriver
- #####: 9088 <#####>#
- #####javax.sql.DataSource

- #####URL###`jdbc:Informix-sqli://host:port/
database_name:informixserver=servername;`
- #####user=<ユーザー名>の追加

```
<?xml version="1.0"?> <Context docBase="<Journeys_Install_Path>/Web/journey.war">
<Environment name="journey.web.home" value="<Journeys_Install_Path>/Web/"
type="java.lang.String"/> <Resource name="JourneyDS" type="javax.sql.DataSource"
factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory" maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000"
username="<your_db_user_name>" password="<your_db_user_password>" driverClassName="javax.sql.DataSource"
url="jdbc:Informix-sqli://host:port/<database_name>:informixserver=<servername>"/> <Resource
name="JourneyReportDS" type="javax.sql.DataSource"
factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory" maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000"
username="<your_db_user_name>" password="<your_db_user_password>" driverClassName="javax.sql.DataSource"
url="jdbc:Informix-sqli://host:port/<database_name>:informixserver=<servername>"/> </Context>
```

MariaDB#####

- #####:org.mariadb.jdbc.Driver
- #####: 3306
- #####org.mariadb.jdbc.Driver
- #####URL: =" jdbc:mariadb://host:port/<DB_USER_NAME> "
- #####user=<ユーザー名>の追加

```
<?xml version="1.0"?> <Context docBase="<Journeys_Install_Path>/Web/journey.war"> <Environment
name="journey.web.home" value="<Journeys_Install_Path>/Web/" type="java.lang.String"/> <Resource
name="JourneyDS" type="javax.sql.DataSource" factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory"
maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000" username="<your_db_user_name>"
password="<your_db_user_password>" driverClassName="org.mariadb.jdbc.Driver"
url="jdbc:mariadb://host:port/<DB_USER_NAME>"/> <Resource name="JourneyReportDS" type="javax.sql.DataSource"
factory="com.hcl.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory" maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000"
username="<your_db_user_name>" password="<your_db_user_password>" driverClassName="org.mariadb.jdbc.Driver"
url="jdbc:mariadb://host:port/<DB_USER_NAME>"/> </Context>
```

Unica Platform データベースのチェックリスト

各 Unica 製品のインストール・ウィザードは、製品を登録するために、Unica Platform システム・テーブル・データベースと通信可能でなければなりません。インストーラーを実行するたびに、Unica Platform システム・テーブル・データベースの以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- JDBC 接続 URL
- データベース・ホスト名
- データベースポート
- データベースの名前またはスキーマ ID
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード

Web アプリケーションサーバーへのUnica Platform の展開に関するチェックリスト

Unica Platform を配置する前に、以下の情報を入手してください。

- **プロトコル**: HTTP、またはWebアプリケーションサーバーにSSLが実装されている場合はHTTPS。
- **ホスト**: Unica Platform がデプロイされるマシンの名前。
- **ポート**: Webアプリケーションサーバーがリッスンするポート。
- **ドメイン名**: HCL製品がインストールされている各マシンの会社ドメイン。例えば、example.com。すべてのHCL製品は、同じ会社のドメインにインストールする必要がある、ドメイン名はすべて小文字で入力する必要があります。

```
#####Unica Platform #####
#####[##] > [##]#####
```

Unica Journey インストールのためのチェックリスト

Unica Journey の各コンポーネントをインストールするには、以下の情報を入手してください。

- hostname -Journey Web アプリケーションがインストールされるシステムの名前です。
- アプリケーション・サーバーが listen するポート。SSL の実装を計画している場合は、SSL ポートを入力します。
- 配置システムのネットワーク・ドメイン。例えば、mycompany.com。

順序のインストールUnica Journey

```
###Unica #####
```

次の表は、Unica Journey をインストールする際に従わなければならない順序についての情報です。

Table 4. 順序のインストールUnica Journey

```
#####Unica Journey
```

製品	この順番でインストールします。
Unica Journey	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unica Platform 2. Unica Journey



Note: Unica Journey 三つのコンポーネントをインストールします:

- Unica Journey Web アプリケーション – Unica Journey Web アプリケーションは、Tomcat がサポートするアプリケーションサーバーにデプロイすることができます。
- Unica Journey エンジン: アプリケーションサーバーへのデプロイは不要で、Journey エンジンはスタンドアロンアプリケーションとしてコマンドライン/ターミナルから起動することができます。
- Apache Kafka: Kafka サーバーと Zookeeper は一緒にインストールされ、コマンドラインまたはターミナルで起動できます。Unica Journey 3 つのコンポーネントはすべて、同じマシンまたは異なるマシンにインストールできます。

Journey Oracle 12C データベースサポート

Oracle 12C (12.1.0.2) ## Journey Upgrade 12.1 > 12.1.0.3

```
JOURNEY 12.1.0.3 # Oracle 12C ##### Journey Web # Journey report #####
##12.1.0.3 ##### Hotfix #####
```

Oracle 12C (12.1.0.2) ## Journey Upgrade 12.1 > 12.1.0.4

Oracle 12C で Journey 12.1.0.4 にアップグレードしたい場合、まずバージョン 12.1.0.3 へのアップグレードが必要です。Journey Web と Journey レポートのデータベーススキーマをクリーンアップし、12.1.0.3 スクリプト (Hotfix として提供) を手動で実行してから、12.1.0 FP4 インストーラを実行してください。



Note: Hotfix については、サポートにお問い合わせください。

##

```
Oracle 12C#####30#####
```

Chapter 3. Unica Journeyのデータソースを作成する

Unica Journey #####Unica Journey ### #####Unica Journey #####
#####

1. Unica JourneyおよびJourneyレポートシステムテーブルのデータベースまたはデータベーススキーマを作成します。

次の表は、Journeyシステムテーブルのデータベースまたはデータベーススキーマを作成するためのベンダー固有のガイドラインに関する情報を提供します。

Table 5. データ・ソース作成のためのガイドライン

2 #####1 #####2

データ ベース・ ベン ダー	ガイドライン
Oracle	環境を開くために自動コミット機能を有効にしてください。Oracle 資料の説明を参照してください。
マ リア DB	Lower_case_table_names を 1 にすると、テーブル名の太文字と小文字が区別されない。wait_timeout=<接続がアクティブになるまでサーバーが待機する時間 (秒) を設定し、接続を閉じます。セッションの値は、スレッドの起動時に、非インタラクティブ接続の場合はグローバル値から、インタラクティブ接続の場合はinteractive_timeout値から初期化されます。> 例: 30日間非アクティブに設定できる場合は25,92,000 (秒) に設定 max_connections=<同時クライアント接続数の最大値>。
SQL サー バー	プラットフォームにはSQL サーバー認証が必要なため、SQL サーバー認証のみ、またはSQL サーバー認証とWindows™認証の両方を使用します。必要であれば、データベース認証にSQL サーバーが含まれるように、データベース構成を変更します。また、SQL サーバー で TCP/IP を必ず有効にしてください。



Note: マルチバイト文字 (中国語、韓国語、日本語など) を使用するロケールを使用可能にする予定の場合、それらをサポートするようデータベースが作成されていることを確認してください。

2. システム・ユーザー・アカウントを作成します。

システム・ユーザー・アカウントには、以下の権限がなければなりません。

- テーブルを作成する
- CREATE VIEWS (レポート用)
- CREATE SEQUENCE (Oracle のみ)
- CREATE INDICES
- ALTER TABLE

- INSERT
 - UPDATE
 - DELETE
3. ODBC 接続またはネイティブ接続を作成します。
 4. ご使用の JDBC ドライバー用に Web アプリケーション・サーバーを構成します。
 5. Web アプリケーション・サーバーで JDBC 接続を作成します。

Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成

Unica Journey#####JDBC#####

##JDBC####Unica Journey#####Web#####

#####

- WebSphere®では、このプロセスでデータベース・ドライバーのクラスパスを設定します。
- Unica Journeyシステムテーブルがデータベースログインユーザーのデフォルトスキーマとは異なるスキーマで作成されている場合、システムテーブルにアクセスするために使用するJDBC接続でそのデフォルトではないスキーマ名を指定する必要があります。
- Tomcat では、このプロセスの際に、ご使用のデータベース・ドライバーのクラスパスを設定してください。
- JBOSS では、JDBC ドライバーのモジュールを追加し、SQL JDBC ドライバーを登録することで、ご使用のデータベース・ドライバーのクラスパスを設定します。
- JNDI名には、`JourneyDS`と `JourneyReportDS`を使用する必要があります。この名前は必須であり、[Unica Journey インストール・ワークシート \(on page 8\)](#)に記載されています。

JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する

Unica Journey ##### Web ##### JDBC ##### JAR #####
 JAR #####Web #####Web #####JAR #####
 #####

WebSphere

#####Journey #####Journey#####

##Manual #####

#####

1. WebSphere Admin Consoleにアクセスする
2. WebSphereでデータソースを設定する
3. ウィザードを続行します: JDBC プロバイダーのセットアップ

4. セキュリティ・エイリアスを指定する
5. データソースのテスト

#####WebSphere#####

JBoss

JBoss #####

1. 「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」のガイドの説明に従って、でサポートされるシステム・テーブル・データベース用に、ベンダー提供の最新のタイプ 4 JDBC ドライバーを入手します。

JDBC ドライバーの入手後、以下のガイドラインを使用します。

- Unica Journeyを展開する予定のサーバーにドライバーが存在しない場合は、ドライバーを入手し、サーバー上で解凍してください。スペースを含まないパスにドライバーを解凍してください。
- データソースクライアントがインストールされているサーバーからドライバを取得する場合、そのバージョンがUnica Journeyでサポートされている最新版であることを確認します。

2. Unica Journeyを展開する予定のWebアプリケーションサーバーのクラスパスに、ファイル名を含むドライバーのフルパスを追加してください。

以下のガイドラインを使用してください。

- サポートされるすべてのバージョンのJBossで、JDBC ドライバーをモジュールとして追加します。次の手順を使用して、JDBC ドライバーをモジュールとして追加します。

#####SQL Server ###:

```
モジュール追加 --name=com.microsoft.sqlserver.jdbc --resources=<JDBC_Driver_Location>\sqljdbc4.jar
--dependencies=javax.api,javax.transaction.api
```

- 次のガイドラインを使用して、この SQL JDBC ドライバーを登録します。次に例を示します。

- /subsystem=datasources/jdbc-driver=sql:add(driver-module-name=com.microsoft.sqlserver.jdbc,driver-name=sql,driver-xa-datasource-class-name=com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerXADataSource)
- /subsystem=datasources/jdbc-driver=sql:read-resource
- /subsystem=ee/service=default-bindings:write-attribute(name=datasource, value=undefined)

3. インストーラーを実行するときにパスを入力する必要があるため、Unica Journey インストールワークシートのデータベース ドライバー クラスパスを書き留めます。
4. 変更内容を有効にするため、Web アプリケーション・サーバーを再始動します。

#####

Apache Tomcat

Apache Tomcat #####

1. 「推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件」のガイドの説明に従って、でサポートされるシステム・テーブル・データベース用に、ベンダー提供の最新のタイプ 4 JDBC ドライバーを入手します。

JDBC ドライバーの入手後、以下のガイドラインを使用します。

- Unica Journeyを展開する予定のサーバーにドライバーが存在しない場合は、ドライバーを入手し、サーバー上で解凍してください。スペースを含まないパスにドライバーを解凍してください。
 - データ・ソース・クライアントのインストール場所であるサーバーからドライバーを入手する場合、でサポートされる最新バージョンであることを確認してください。
2. Unica Journeyを展開する予定のWebアプリケーションサーバー (<Tomcat_Installed Location>/lib) のクラスパスに、ファイル名を含むドライバーのフルパスを追加してください。
 3. データベースドライバのクラスパスは、[Unica Journey インストール・ワークシート \(on page 8\)](#)、インストーラを実行するときに入力する必要があるため、メモしておいてください。
 4. 変更内容を有効にするため、Web アプリケーション・サーバーを再始動します。

#####

JDBC 接続を作成するための情報

#####JDBC #####



Note: データベースのデフォルト・ポート設定を使用しない場合は、正しい値に必ず変更してください。

WebSphere

#####WebSphere#####

SQLサーバー

- ドライバー: 該当/なし
- デフォルトのポート: 1433
- ドライバークラス: `com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource`
- ドライバーURL: `jdbc:sqlserver://<DBHostName>:1433;databaseName=<DBName>`。

#####

JDBC プロバイダーとデータ・ソースを作成した後、データ・ソースの「カスタム・プロパティ」に移動して、以下のようにプロパティを追加および変更します。

- サーバ名=<your_SQL_server_name>
- portNumber =<SQL_Server_Port_Number>
- データベース名=<your_database_name>

次のカスタム プロパティを追加します。

- 名前: `webSphereDefaultIsolationLevel`
- 値: 1
- データタイプ: インテジャ

Oracle

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルトのポート: 1521
- ドライバクラス: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- ドライバー URL: `jdbc:oracle:thin:@
<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>`

```
##### URL ##### #####JDBC ##### Oracle # RAC (Real Application Cluster) ##  
#####
```

次のカスタム プロパティを追加します。

- 名前: `webSphereDefaultIsolationLevel`
- 値: 2
- データタイプ: インテジャ

MariaDB

- データベース ドライバー: `mariadb-java-client-2.5.1.jar`
- デフォルトのポート: 3306
- ドライバークラス: `org.mariadb.jdbc.Driver`
- ドライバー URL: `jdbc:mariadb:// <your_db_host>:<PORT>/<Your_DB_user_name>`
- プロパティ: ユーザーを追加 = `<your_db_user_name>`
- プロパティ: `user = password=<your_db_password>`を追加します。
- ドライバーモジュール `xa-datasource-class= org.mariadb.jdbc.MySQLDataSource`

OneDB

- データベース ドライバー: `onedb-jdbc-complete-8.0.0-SNAPSHOT.jre8.jar`
- データベースポート: 20195
- ドライバー: Informix JDBC ドライバー
- ドライバークラス: `com.informix.jdbc.IfxDriver`
- ドライバー URL: `jdbc:informix-sqli://<your_db_host>/
<your_db_name>:INFORMIXSERVER=<your_db_servername>;`

JBoss

```
##### JAR #####: db2jcc4.jar/ojdbc8.jar/  
sqljdbc4.jar #
```

JBoss

SQL###

- データベースドライバー: Microsoft MS SQL サーバー ドライバー (タイプ 4). バージョン: 2012、2012 SP1およびSP3、2014、2014 SP1、2016 SP1
- デフォルトのポート: 1433
- ドライバークラス: `com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver`
- ドライバーURL: `jdbc:sqlserver://<your_db_host>`
`[\<named_instance>]:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>,`
`valid-connection-checker-class-name`
`=org.jboss.jca.adapters.jdbc.extensions.mssql.MSSQLValidConnectionChecker`

```
#:/subsystem=datasources/data-source=UnicaPlatformDS:add(jndi-name="java:/UnicaPlatformDS",connection-
url="jdbc:sqlserver://localhost:1433;databaseName=plat11",driver-name=sql,user-name=sa,password=test1234,valid-
connection-checker-class-name="org.jboss.jca.adapters.jdbc.extensions.mssql.MSSQLValidConnectionChecker")
```

Oracle

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルトのポート: 1521
- ドライバークラス: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- ドライバー URL: `jdbc:oracle:thin:@`
`<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>`

#####

###DB

- データベース ドライバー: mariadb-java-client-2.5.1.jar
- デフォルトのポート: 3306
- ドライバークラス: `org.mariadb.jdbc.Driver`
- ドライバー URL: `jdbc:mariadb:// <your_db_host>:<PORT>/<Your_DB_user_name>`
- プロパティ: ユーザーを追加 = `<your_db_user_name>`
- プロパティ: `user = password=<your_db_password>`を追加します。
- ドライバー モジュール `xa-datasource-class= org.mariadb.jdbc.MySQLDataSource`

OneDB

- データベース ドライバー: onedb-jdbc-complete-8.0.0-SNAPSHOT.jre8.jar
- データベースポート: 20195
- ドライバー: Informix JDBC ドライバー

- ドライバークラス: `com.informix.jdbc.IfxDriver`
- ドライバーURL: `jdbc:informix-sqli://<your_db_host>/<your_db_name>:INFORMIXSERVER=<your_db_servername>;`

Tomcat

JAR #####: db2jcc4.jar/ojdbc7.jar/sqljdbc4.jar#



Note: パスワードを暗号化する場合は、<JOURNEY_HOME>/tools/bin にある `encryptTomcatDBPasswords.sh` ユーティリティを実行します。ユーティリティの詳細を確認するには、Unica Platform オーム管理ガイド > 第 20 章にアクセスしてください。[Unica プラットフォームユーティリティと SQL スクリプト] > [Unica Journey ユーティリティ] > [encryptTomcatDBPassword] を選択してください。

Tomcat

SQL####

- データベースドライバー: Microsoft MS SQL サーバー ドライバー (タイプ 4). バージョン: 2012、2012 SP1 および SP3、2014、2014 SP1、2016 SP1
- デフォルトのポート: 1433
- ドライバークラス: `com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver`
- ドライバークラスタイプ: `javax.sql.DataSource`
- ドライバーURL: `jdbc:sqlserver://<your_db_host> [\\<named_instance>]:<your_db_port>;データベース名=<your_db_name>`

Oracle

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルトのポート: 1521
- ドライバークラス: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- ドライバー URL: `jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>`

マリアDB

- ドライバー: MariaDB JDBC ドライバー
- デフォルトのポート: 3306
- ドライバークラス: `org.mariadb.jdbc.Driver`
- ドライバー URL: `jdbc:mariadb://<your_db_host>:<PORT>/<Your_DB_user_name>`
- プロパティ: ユーザー名を追加します = `<your_db_user_name>`

OneDB

- データベース ドライバー: onedb-jdbc-complete-8.0.0-SNAPSHOT.jre8.jar
- データベースポート:20195
- ドライバー: Informix JDBC ドライバー
- ドライバークラス: `com.informix.jdbc.IfxDriver`
- ドライバーURL: `jdbc:informix-sqli://<your_db_host>/<your_db_name>:INFORMIXSERVER=<your_db_servername>;`

Chapter 4. インストールしていませんUnica Journey

Unica #####Unica Journey #####Unica#####
#####Unica #####

Unicaを実行するたびにスイートのインストーラーでは、最初にデータベース接続情報を入力する必要があります。Unica Platformシステムテーブル。Unica Journeyときインストーラーが起動したら、必要な情報を入力する必要があります。Unica Journey



Note: Unica Journeytomcat の EAR ファイルを使用した Web アプリケーションのデプロイはサポートされていません。

インストール・ファイル

#####UNIX#™ #####OS#####UNIX#™ ###X Window #####
#####

次の表に、製品のバージョンとオペレーティング・システムに従って命名されたインストール・ファイルの例を示します。

Table 6. インストール・ファイル

2 ##### 1 ##### 2

オペレーティング・システム	インストール・ファイル
Windowsの™場合。GUIおよびコンソールモード	<p><i>Product_.N.N.N.N_win64.exe</i> ##Product####N.N.N.N#####Windows™64bit #####</p> <p><i>Product_N.N.N.N_win.exe,</i></p> <p>####Product#####N.N.N.N#####Windows™32 #####</p> <p>#####</p>
LINUX: X Window システムモード	<p><i>Product_N.N.N.N_linux_linux.bin</i> ##Product####N.N.N.N#####</p> <p><i>Product_N.N.N.N_linuxrhel64.bin</i>##Product#####N.N.N.N#####</p> <p>#####</p>
LINUX: コンソールモード	<p><i>Product_N.N.N.N.bin</i>、<i>Product</i>は製品名、<i>N.N.N.N</i>は製品のバージョン番号です。このファイルは、すべてのUNIX™オペレーティングシステムでのインストールに使用することができます。</p>

GUI モードを使用した Unica Journey のインストール

Windows™ #####GUI #####Unica Journey #####LINUX#####X Window #####Unica Journey #####

! **Important:** GUI モードを使用してUnica Journey をインストールする前に、Unica Journey をインストールするコンピュータで利用可能な一時的なスペースがUnica Journey のインストーラのサイズの 3 倍以上であることを確認してください。

Unica インストーラーと Unica Journey インストーラー が Unica Journey のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにあることを確認してください。

以下のアクションを実行し、GUI モードで Unica Journey をインストールします。

1. Unica インストーラーを保存したフォルダーに移動して、 インストーラーをダブルクリックして開始します。
2. 最初の画面で**[OK]**をクリックすると、 **Introduction**ウィンドウが表示されます。
3. インストーラーの指示に従って、 **[次]**をクリックします。
以下の表にある情報を使用して、 Unica インストーラーの各ウィンドウで該当するアクションを実行します。

Table 7. Unicaインストーラー

ウィンドウ	説明
概要	Unica #####U-nica Journey ##### ##### ##### [##] #####
レスポンスファイル 送信先	##### ##### ##### # GUI ##### ##### [##]##### [##] #####
Unica製品	##### #####


ウィンドウ	説明
	<pre>#####]##### ##### ##]#####[#####]##### ## [##] #####</pre>
<p>インストール・ディレクトリー</p>	<pre>##### ##### ##### ##### [##] #####</pre>
<p>アプリケーションサーバーを選択します</p>	<pre>#####Journey ##### #####Platform ##### ##### [##] #####</pre>
<p>Platform データベースのタイプ</p>	<pre>Oracle ### OneDB ###Unica Platform##### [##] #####</pre>
<p>Platform データベース接続</p>	<p>データベースに関する次の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ データベース・ホスト名 ◦ データベースポート ◦ データベース名またはシステム ID (SID) ◦ データベース・ユーザー名 ◦ データベース・パスワード <p>[次へ] をクリックします。</p>
<p>Platform データベース接続 (続き)</p>	<pre>JDBC ##### [##] #####URL ##### #####</pre>
<p>ブリインストールのサマリー</p>	<pre>#####</pre>



ウィンドウ	説明
	##### Unica Journey #####

- Unica Platformの指示に従ってくださいインストーラーを使用して Unica Platform をインストールまたはアップグレードします。詳しくは、「Unica Platformインストール・ガイド」を参照してください。
- 「インストールの完了」ウィンドウで、「終了」をクリックします。
Unica Platform のインストールが完了し、Unica Journey のインストーラーが開きます。
- 以下の表にある情報を使用して、Unica Journey インストーラーをナビゲートします。**Platform データベース接続**ウィンドウで、必要な情報をすべて入力し、**Next**をクリックして、Unica Journey インストーラーを開始します。

Table 8. Unica JourneyインストーラーGUI

####Unica Journey #####

ウィンドウ	説明
概要	### Unica Journey ##### #####Unica Journey ##### ##### [##] #####
ソフトウェアのご使用条件	#####Print##### #####
インストール・ディレクトリー	#####Uni- ca Journey# [##] #####
コンポーネント	##### ##### ##### [次へ] をクリックします。  Note: Unica Journeyこれら3つのコンポーネントは、同じマシンまたは異なるマシンにインストールすることができます。

ウィンドウ	説明
	 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Unica JourneyWebアプリケーション ◦ Unica Journeyエンジン ◦ Apache Kafka
Unica Journeyデータベースのセットアップ	<p>Unica Journeyデータベースのセットアップは自動的に行われます。デフォルトでは、UnicodeをサポートしたSQLを実行します。</p> <p>#####Unicode# #####Unicode SQL#####</p> <p>[##] #####</p>
Unica Journeyデータベースタイプ	<p>#####Oracle#SQL#####MariaDB### OneDB#</p> <p>[##] #####</p>
Unica Journeyデータベース接続	<p>Journey データベースについて、以下の詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ データベース・ホスト名 ◦ データベースポート ◦ データベース・システム ID (SID) ◦ データベース・ユーザー名 ◦ パスワード <p>[##] #####</p>
JDBC 接続	<p>JDBC #####</p> <p>[##] #####</p>
Unica Journey接続設定	<p>#####</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ ネットワーク・ドメイン名 <p> Note:</p> <p>ネットワークドメイン名を追加すると、次のようなメッセージが表示されることがあります。</p>

ウィンドウ	説明
	<div data-bbox="950 268 997 317" style="float: left; margin-right: 10px;"></div> <div data-bbox="1024 268 1398 380" style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">警告サーバー名には、ドメイン名が含まれ、最終 URL にはドメイン名のいくつかのオカレンスが含まれます</div> <p>ドメイン名を変更する場合は [修正] を、メッセージを取り消す場合は [キャンセル] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ ホスト名 ◦ ポート番号 <p>#####</p> <p>[##] #####</p>
<p>Unica Platform接続設定</p>	<p>#####</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ ネットワーク・ドメイン名 <div data-bbox="950 1010 997 1058" style="float: left; margin-right: 10px;"></div> <p>Note:</p> <p>ネットワークドメイン名を追加すると、次のようなメッセージが表示されることがあります。</p> <div data-bbox="1024 1224 1398 1335" style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">警告サーバー名には、ドメイン名が含まれ、最終 URL にはドメイン名のいくつかのオカレンスが含まれます</div> <p>ドメイン名を変更する場合は [修正] を、メッセージを取り消す場合は [キャンセル] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ ホスト名 ◦ ポート番号 <p>#####</p> <p>[##] #####</p>

ウィンドウ	説明
Kafkaスタンドアロンサーバーの詳細	このインスタンスと一緒にKafkaスタンドアロンインスタンスをインストールする場合、Kafkaの設定に以下の詳細が更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ ホスト名: KafkaがインストールされているKafka Standaloneサーバーのホスト名を含めます。 ◦ ポート番号: Kafka Zookeeperのポート番号を記載します。
プリインストールのサマリー	<pre>##### ##### Unica Journey #####</pre>
インストールの完了	<pre>#####Unica Journey #####Unica # #####</pre>

7. 「インストールの完了」ウィンドウで「終了」をクリックし、Marketing Operations インストーラーを終了してUnica JourneyインストーラーUnicaに戻ります。
8. Unica インストーラーの指示に従い、Unica Journey のインストールを完了させます。
以下の表にある情報を使用して、Unica インストーラーの各ウィンドウで該当するアクションを実行します。

Table 9. HCL UnicaインストーラーGUI

#####Unica #####

ウィンドウ	説明
デプロイメントEARファイル	<pre>Unica ##### (EAR) ### ##### [##] #####</pre>
インストールの完了	<pre>##### ##### #####Unica #####</pre>

コンソールモードによるUnica Journey のインストール

```
#####Unica Journey #####
#####
```

Unica Journey をインストールする前に、必ず以下を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

```
#####UTF-8 #####ANSI #####
#####
```

1. コマンドラインプロンプトのウィンドウを開き、Unica インストーラーとUnica Journey インストーラーを保存したディレクトリに移動します。
2. 以下のアクションのいずれか 1 つを実行して、Unica インストーラーを実行します。
 - Windows™の場合、以下のコマンドを入力します。

```
HCL_Unica_installer_12.1.0.3 -i Console
```

```
#: HCL_Unica_Installer_12.1.0.3_win.exe -i Console
```

- UNIX™の場合、`HCL_Unica_installer_12.1.0.3 .sh` ファイルを呼び出します。

```
#: HCL_Unica_installer_12.1.0.3.sh
```

3. コマンド・ライン・プロンプトに表示される指示に従ってください。コマンドラインプロンプトでオプションを選択する必要がある場合は、以下のガイドラインを使用してください。
 - デフォルト・オプションはシンボル [X] で定義されます。
 - オプションを選択またはクリアするには、そのオプションに定義されている番号を入力し、Enter キーを押します。

例えば、インストール可能なコンポーネントが以下のリストに表示されていると想定します。

```
1 [X]Unica Platform
```

```
2 [X]Unica Journey
```



Note: すでにインストールされている場合を除き、Unica Platform のオプションはクリアしないでください。

4. UnicaのインストーラーがUnica Journeyインストールプロセス中のインストーラー。Unica Journey のインストーラーのコマンドラインプロンプトウィンドウの指示に従ってください。

5. Unica Journey インストーラーのコマンドラインプロンプトウィンドウで`quit`を入力すると、ウィンドウは閉じます。Unica のインストーラーのコマンドラインプロンプトウィンドウの指示に従って、Unica Journey のインストールを完了します。



Note: インストールの間にエラーが発生した場合、ログ・ファイルが生成されます。このログ・ファイルを表示するには、インストーラーを終了する必要があります。

Chapter 5. 配置後の Unica Journey の構成

```
#####Unica Journey#####Unica Journey#####Unica Journey#####Unica Journey#####
```

Unica Journeyプロパティを構成する

```
Unica Journey #####Unica Journey#####
```

Link と Deliver の構成プロパティを設定する

```
#####Unica Platform #Affinium|Journey|Link_Configurations の#####Link Configuration ##Unica Journey #Unica Link #####
```

Journey >Link_Configurations#####Unica Link #####

- Link_URL を指定します。Unica Link デザインサーバーの URL を指定します。末尾に / が付いていないことを確認します。例: http://<FQDN>: <PORT>
- Link_Data_Source_ユーザ:Unica Link デザインサーバーの資格情報を保存するPlatform ユーザーを指定します。
- Link_Data_Source_名:認証情報を持つデータソース名を指定します。

```
#####Affinium|Journey|Deliver_Configurations #####Deliver Configuration ##Unica Journey #Unica Deliver #####
```

Journey >Deliver_Configurationsカテゴリにある以下のUnica Linkの構成プロパティを手動で設定します。

- Deliver_URL を指定します。Unica Deliver TMS サーバーの URL を指定します。例) http://<UNICA_DELIVER_HOST>/delivertms/services/TMSの場合。
- Deliver_Partition:Deliver TMS が設定されているCampaign のパーティション名を指定します。



Note: Deliver_Partitionに正しいパーティション名を入力したことを確認してください。

```
#####Unica Link #Unica Deliver #####
```

```
Platform #####:
```

```
#Journey# (Affinium|Journey) ###
```

```
Link_Configured - #####Unica Link #Unica Journey ##### (###/SMS/CRM #####)#
```

```
#### - ##/ ###
```

```
## -Unica Link #####Journey
```

Deliver_Configured - #####Unica Deliver #Unica Journey #####

- ##/

-Unica Deliver #####Journey

Journey Web#####

Platform_Configured- #####Unica Platform#####Unica Journey

Journey#####Platform API#####

パス = コンフィギュレーション/Unica Platform/Security/API Management/Unica Platform

- 認証 = すべて無効にする
- データソース = すべてを無効にする
- ユーザー詳細 = すべて無効にする
- 構成プロパティの取得 = すべて無効にする
- コンフィギュレーション = すべて無効にする
- ログイン = すべて無効にする
- ユーザーの役割の許可 = すべてを無効にする
- ユーザー詳細 = すべて無効にする
- ライセンス = すべて無効にする
- インストールされているアプリケーションを取得する = すべて無効にする



Note: Platformのトークン有効期限はデフォルトで15秒なので、手動で1800秒（30分）に延長する必要があります。Platformのためにトークンの有効期限を延長するためのパスが表示されます: **Platform > 設定方法 > 設定方法 > 一般設定 > その他 > トークン有効期限**

JourneyをHTTPSでアクセスするためのAPI設定。

- 「認証」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerAuthentication)
 - API URI - /authentication/login
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 有効
 - APIアクセスに認証を要求する - 無効
- 「ユーザ」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerUser)
 - API URI - /user/partitions/*
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 無効
 - APIアクセスに認証を要求する - 有効
- 「ポリシー」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerPolicy)
 - API URI - /policy/partitions/*
 - APIアクセスをブロックする - 無効

- HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 無効
- APIアクセスに認証を要求する - 有効
- 「構成」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|Configuration)
 - API URI - /datasource/config
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 有効
 - APIアクセスに認証を要求する - 有効
- 「データソース」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|Datasource)
 - API URI - /datasource
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 有効
 - APIアクセスに認証を要求する - 無効
- 「ログイン」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|Login)
 - API URI - /authentication/v1/login
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 有効
 - APIアクセスに認証を要求する - 無効
- 「User roles permissions」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerGetRolesPermission)
 - API URI - /policy/roles-permissions
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 無効
 - APIアクセスに認証を要求する - 有効
- 「ユーザ詳細」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerGetUserDetails)
 - API URI - /user/user-details
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 有効
 - APIアクセスに認証を要求する - 有効
- 「構成プロパティの取得」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerGetConfigProperty)
 - API URI - /configuration/get
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 有効
 - APIアクセスに認証を要求する - 無効
- 「ライセンス」の設定 (Affinium|suite|security|apiSecurity|manager|managerLicense)
 - API URI - /license/*
 - APIアクセスをブロックする - 無効
 - HTTPSによるセキュアなAPIアクセス - 無効
 - APIアクセスに認証を要求する - 無効



Note: これらの設定変更を適用した後、Platformアプリケーションを再起動します。

#####

各プレーンテストパスワードに対して、暗号化されたパスワードを生成することが要求されます。暗号化ツールを複数回実行し、暗号化されたパスワードを生成します。

1. <JOURNEY_WEB_HOME>/tools/ に移動してください。
2. JourneyEncryptionUtilityにJAVA_HOMEを設定する。

```
JAVA_HOME=<UNICA_HOME>/jre export JAVA_HOME
```

3. Linux OSをお使いの場合は、以下のコマンドでJourneyEncryptionUtility をUnixモードに変換してください。

```
dos2unix JourneyEncryptionUtility
```

4. JourneyEncryptionUtilityを以下のコマンドで実行します。

```
#####EncryptionUtility<PASSWORD TEXT>
```

5. JourneyEncryptionUtilityは、コンソール出力に暗号化されたパスワードでプロンプトを表示します。

```
#####Journey#####Journey Reports#####  
#####
```

ClientIDとClientSecretを生成する手順

```
Unica Platform#clientDetailsUtility#####Journey#####
```

Linux システムでは、.bat の代わりに .sh ファイルを使用します。

1. PLATFORM_HOMEのtoolsbinディレクトリに移動します。Platformがインストールされているマシンが異なる場合は、Platformがインストールされているマシンでこのコマンドを実行します。
2. clientDetails -a Journeyとしてコマンドを実行します。これにより、ClientIDとClientSecretが生成される。以下はその例です。

```
C:\Unica\Platform\tools\bin>clientDetails.bat -a Journey
```

```
C:\Unica\Platform\tools\bin>echo off
```

```
WARN com.unica.manager.configuration.ConfigurationManager - #####  
##Hibernate#####
```

```
#####
```

```
ClientID: 885345
```

```
ClientSecret#IfnKG2eqniVnaT8
```

```
#####
```

```
ClientSecret#ClientId#####!
```

3. 生成されたClientIDとClientSecretを Journey Web アプリケーション.propertiesで使用します。

```
platform.clientId=#####ClientID#
```

```
platform.clientSecret=#####ClientSecret
```

Journey Web およびJourney Engine のアプリケーションプロパティを更新します。

```
Journey Web#Journey Engine#####
```

Journey Web **アプリケーション.properties**の更新を行うには、ユーザーが以下の手順を実行する必要があります。

1. 以下のプロパティは、PlatformとJourneyを並行して起動するために使用されます。アプリケーションサーバーによっては、Platformの起動に通常より多くの時間を要する場合があります。これらのプロパティはJourneyの起動時に使用され、指定された再試行回数と時間間隔でPlatformへの接続を試行します。

- `platform.connect.retry.number`: Platformへの接続を何回再試行するか。

- `platform.connect.retry.interval`: Platformへの接続の再試行間隔時間(ミリ秒)

```
#####<Journey_Home>/Web/ Properties/application.properties #####
#####Tomcat#####Websphere
Application #####WAS#####
```

2. JOURNEYS_HOME/Web/properties/application.properties の "spring.entity.files.upload.defaultPath" パラメータのパスが、シングルフォワードスラッシュ (\) からダブルフォワードスラッシュ (\) に変更になりました。
3. JOURNEYS_HOME/Web/properties/application.properties のパラメータ [spring.ignit.storage.path] のパスが、シングルフォワードスラッシュ (\) からダブルフォワードスラッシュ (\) へ変更になりました。



Note: デフォルトでは、プロパ

ティ `spring.entity.files.upload.defaultPath` と `spring.entity.files.upload.defaultFileReadBuffer` は1行で表示されます。以下のように、2つのプロパティに分ける必要があります。

```
spring.entity.files.upload.defaultPathを指定します。
```

```
spring.entity.files.upload.defaultFileReadBufferを使用する。
```

Journey Engineのアップデート -**application.properties**ファイル

```
Engine application.properties#####Journeys_Install_location/Engine/#####
###
```

以下の手順で、アップデートを実施します。

1. 以下のプロパティの暗号化パスワードを生成し、Engine application.properties ファイルに記述する。`/JourneyEncryptionUtility.sh <JOURNEYS_HOME/tools>` を使用して、以下のプロパティを生成し、Engineの application.propertiesファイルに記述します。

- `journey.datasource.password`
- `journey.report.datasource.password`

```
JourneyEncryptionUtility.sh (<JOURNEYS_HOME/tools>)<Journey System schema password> ### <Journey
Report schema password>#####
```

```
#####
```

```
[unica@cobra009 tools]$ ./JourneyEncryptionUtility.sh JourneySysctemschema
```

```
#####...
```

```
#####:JourneySysctemschema
```

```
#####3CKsX5SWYtGl+psHqIYUGkjXF9EVv6+XYP6GTIMa7WQ=###
```

2. JOURNEYS_HOME/Engine/application.properties の "spring.entity.files.upload.defaultPath" パラメータのパスに、シングルフォワードスラッシュ (\) からダブルフォワードスラッシュ (\\) に変更する必要があります。
3. JOURNEYS_HOME/Engine/application.properties の "spring.ignite.storage.path" パラメータのパスが、シングルフォワードスラッシュ (\) からダブルフォワードスラッシュ (\\) に変更になりました。
4. Journey Engineのapplication.propertiesに生成されたClientIDとClientSecretを使用します。

```
platform.clientId=#####Journey Web #####ClientID
```

```
platform.clientSecret=#####Journey Web#####
```



Note: デフォルトでは、プロパ

ティ `spring.entity.files.upload.defaultPath` と `spring.entity.files.upload.defaultFileReadBuffer` は1行で表示されます。以下のように、2つのプロパティに分ける必要があります。

```
spring.entity.files.upload.defaultPathを指定します。
```

```
spring.entity.files.upload.defaultFileReadBufferを使用する。
```



Note: アップグレード前に作成されたジャーニーのデータ処理に矛盾が生じないよう、アップグレード後の上記WebおよびEngineのイグナイトおよびtempフォルダのパスは、アップグレード前のものと同じにする必要があります。

KafkaStandalone server.properties および zookeeper.properties ファイルを更新します。

Windowsを使用している場合は、以下のサブステップを実行します。

1. JOURNEY_HOME/KafkaStandalone/config/zookeeper.propertiesの dataDir パラメータのパスが、1重のフォワードスラッシュ (\) から2重のフォワードスラッシュ (\) に変更になりました。
2. JOURNEY_HOME/KafkaStandalone/config/server.propertiesの log.dirs パラメータのパスに、シングルフォワードスラッシュ (\) からダブルフォワードスラッシュ (\) を含むように変更しました。

Tomcat#####journey.xml#####

Journey ## XML #####Journey #####JourneyEncryptionUtility#####
#####password##journey.xml#####

開始と検証のUnica Journeyインストール

Unica Journey #####Unica Journey Web #####

Unica Journey #####

Journey #####

Journey Web または Engine アプリケーションを起動するための前提条件:

- Unica Platformを起動する必要があります。
- Zookeeperのサーバーが稼働しています。
- Kafkaのサーバーが稼働しています。

#####Unica Journey

Unica JourneyTomcat#####Web#####Tomcat#####

Unica Journey ####/######

- Unica JourneyEngineアプリケーションはスタンドアロンアプリケーションで、以下の手順で起動します。
 - JOURNEY_HOME/Engineディレクトリに移動します。
 - java-jar journeyEngine.jarを実行して、Engineアプリケーションを実行します。オプションで、これをサービスとして起動するスクリプトを書くことができます。

Kafka####Zookeeper###

KafkaサーバーとZookeeperサーバーは、以下のコマンドで起動できます。

- JOURNEY_HOME/KafkaStandalone/bin(Linuxの場合)に移動します。
- JOURNEY_HOME/KafkaStandalone/bin/windows(Windowsの場合)に移動します。

以下のコマンドを実行して、まずZookeeperを起動します (ZookeeperはKafkaサーバーを停止している間に起動しておく必要があります)。

```
zookeeper-server-start <PATH TO ZOOKEEPER CONF FILE>.
```

```
## zookeeper-server-start JOURNEY_HOME/KafkaStandalone/config/zookeeper. properties
```

kafka-server-start <PATH TO SERVER CONF FILE>を指定します。

```
##kafka-server-start JOURNEY_HOME/KafkaStandalone/config/server.properties
```

#####Journey##

```
#####Unica Platform Administrators #####asm_admin ####Unica ##### > #####
#####Unica Journey ######[#####]#####
#Unica Journey##### #####JourneyAdmin ###JourneyUser#####
#####2#####JourneyAdmin #JourneyUser #####
#####Platform #####Journey #####
```

Unica 製品との統合のためのプロパティの設定

Unica Journey#####

Unica Journey ###Unica suite #####

#####Unica Link

タスク	資料
のインストールと設定Unica Link	<i>Unica Link</i> V12.1インストールガイド
のUnica Link コネクタアプリをインストールします。Journey	<i>Unica Link</i> V12.1インストールガイド
Unica Link コネクタのインストール - MailChimp	<i>Unica LinkMailchimp Connector</i> ユーザーガイド
Unica Link コネクタの取り付け - Mandrill	<i>Unica LinkMandrill Connector</i> ユーザーガイド
Unica Link コネクタのインストール - Twilio	<i>Unica LinkTwilio</i> コネクタユーザーガイド
Unica Link コネクタのインストール - Salesforce	<i>Unica LinkSalesforce Connector</i> ユーザーガイド

Unica Campaign と他のHCL製品との統合

タスク	資料
Unica Campaign の統合とUnica Journey	<i>Unica Campaign</i> アドミニストレーションガイドおよび <i>Unica Campaign</i> ユーザーガイド
Unica Campaign の統合とUnica Interact	<i>Unica Interact</i> 管理ガイド
Unica Deliver との統合Unica Journey	<i>Unica Journey</i> ユーザー・ガイド

Journey Proxy 統合

```
Proxy#####Proxy#####
#####Proxy#####Deliver#Link#Platform#####
```

```
Journey Web - Deliver#Link#Platform#####Journey####/SMS/AdTech Point#####
```

```
Journey Engine - Proxy####Deliver/Link Server#####E####/SMS/Adtech#####
```

Journey WebでサポートされているProxy

1. SOCKS
2. HTTP
3. HTTPS

JourneyエンジンでサポートされているProxy

1. HTTP



Note: EngineがDeliverと通信するために使用するSOAP (Apache Axis2) では、SOCKSおよびHTTPS Proxyはサポートされていません。

エンジンの application.properties ファイルでエンジン用に設定するプロパティ

- journey.proxy.type=NONE
- spring.proxy.host=[IP]
- spring.proxy.port=[PORT]
- spring.proxy.username=[username]
- spring.proxy.password=[password]

Web application.properties ファイルで Web 用に設定されるプロパティ

- journey.proxy.type=NONE
- spring.proxy.host=[IP]
- spring.proxy.port=[PORT]
- spring.proxy.username=[username]
- spring.proxy.password=[password]
- server.use-forward-headers=true



Note: journey.proxy.typeプロパティのデフォルト値はNONEで、NONEに設定するとProxyは無効となる。

データベースの変更

#####MS SQL#####

Journey#####SQL#####E#####

```
DROP TABLE IF EXISTS EmailUnsubscribedList;
```

```
CREATE TABLE EmailUnsubscribedList(
```

```
id BIGINT NOT NULL IDENTITY,
```

```
emailId NVARCHAR(200) NOT NULL,
```

```
status NVARCHAR(200) DEFAULT 0 NOT NULL,
```

```
channelAgent NVARCHAR(50),
```

```
eventID BIGINT NOT NULL,
```

```
audienceResponseId BIGINT,
```

```
audienceResponseExtendedId BIGINT,
```

```
createdBy NVARCHAR(200) DEFAULT 'SYSTEM' NOT NULL,
```

```
version BIGINT,
```

```
createdDate DATETIME2,
```

```
createdDateEpoch BIGINT NOT NULL,
```

```
modifiedDateTimeEpoch BIGINT,
```

```
FOREIGN KEY (eventID) REFERENCES AudienceResponseEventMaster(id),
```

```
FOREIGN KEY (audienceResponseId) REFERENCES AudienceResponse(id),
```

```
CONSTRAINT unique_emailId UNIQUE (emailId),
```

```
PRIMARY KEY (id)
```

```
);
```

```
DROP TABLE IF EXISTS AudienceResponseExtended;
```

```
CREATE TABLE AudienceResponseExtended(
```

```
id BIGINT NOT NULL IDENTITY,
```

```
AudienceResponseId BIGINT NOT NULL,
```



```
associatedAttributes NVARCHAR(MAX),  
  
isProcessed BIT DEFAULT 0 NOT NULL,  
  
createdDate DATETIME2,  
  
createdBy NVARCHAR(200),  
  
version BIGINT,  
  
responseTimeEpoch BIGINT NOT NULL,  
  
createdDateEpoch BIGINT,  
  
FOREIGN KEY (audienceResponseId) REFERENCES AudienceResponse(id),  
  
CONSTRAINT ensure_attribute_json CHECK (ISJSON(associatedAttributes) > 0),  
  
PRIMARY KEY (id)  
  
);
```

Chapter 6. Unica Journey アプリケーションのデプロイメント

Unica Journey Web ##### WAR ##### WAR #####

Unica Journey を配置するには、このセクションのガイドラインに従ってから、Unica Journey サーバーを始動してください。

```
Unica JourneyWeb#####tomcat#####Unica Platform (unica.war) #####
#####tomcat #####
```

Apache Tomcat アプリケーションサーバーにUnica Journey を配置する。

以下のJourney のコンポーネントを配置または実行することができます。

- JourneyWeb - Tomcat にデプロイする必要があります。
- Journeyエンジン - スタンドアローンのアプリケーションとして実行されます。
- Kafka サーバー - スタンドアロン アプリケーション (Kafka サーバーと Zookeeper) として実行されます。

Tomcat に Unica Journey を配置する場合には、以下のガイドラインに従ってください。

- Unica製品は、Tomcatが使用するJVMをカスタマイズします。Unica Journey Web アプリケーション展開専用の新しい tomcat インスタンスを作成する必要があります。
- 本番環境に導入する場合は、以下のset CATALINA_OPTS=%CATALINA_OPTS% -Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=512m行を追加して、JVMのメモリーヒープサイズパラメーターを最低でも1024に設定してください。

```
#####-Xmx #####
##2048 ##### 64 ##### JVM #####
```

- JAVA_OPTIONS パラメーターを変更して以下の値を setenv.bat/sh に追加します。

```
JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -DUNICA_PLATFORM_CACHE_ENABLED=true -Dclient.encoding.override=UTF-8#####.
```

- Unica Journey Tomcat インスタンスにjourney.war のパスと一緒に **journey.xml** という名前のUnica Journey 配置 XML ファイルを追加する必要があります。以下に例を示します。

```
<?xml version="1.0"?> <Context DocBase="<Journey_ホーム>/Web/journey.war" <環境
name="journey.web.home" value="<Journey_HOME>/Web/" type="java.lang.String"/> <リソース名=Journey
DS" type="javax.sql.DataSource" factory="com.hCL.journey.tomcat.util.JourneyTomcatDSFactory"
最大 Active="30" maxIdle="10" maxWait="10000" ユーザー名="<ユーザー名>" パスワード= "<パスワード>"
driverClassName = [ドライバ_クラス名] url="<ドライバ_URL>"/> <リソース名=Journey ReportDS"
type="javax.sql.DataSource" factory="com.hCL.journey.tomcat.Util.JourneyTomcatDSFactory"
maxActive="30" maxIdle="10" maxWait="10000" ユーザー名="<ユーザー名>" パスワード= "<PASSWORD>"
driverClassName = [DRIVER_CLASS_NAME] url="<ドライバ_URL>"/> </Context>
```

**Note:**

- docBase = パスは、Journey Web War を指す必要があります
- {{You can encrypt DB password using }}、以下の `JourneyEncryptionUtility.sh` は、`<Journey_Install_Path>/tools` に方法で行います。

#####

Oracle:

DRIVER_URL : jdbc:oracle:thin:@<DB_HOST_NAME>:<DB_PORT>:<SID_NAME>.

DRIVER_CLASS_NAME : oracle.jdbc.OracleDriver

MariaDB:

DRIVER_URL : jdbc:mariadb://<DB_HOST_NAME>:<DB_PORT>/<DB_USER_NAME>

DRIVER_CLASS_NAME : org.mariadb.jdbc.Driver

SQL ####

DRIVER_URL : jdbc:sqlserver://<DB_HOST_NAME>:<DB_PORT>;databaseName=<DB_USER_NAME>

DRIVER_CLASS_NAME : com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver

OneDBDRIVER_URL : jdbc:informix-sqli://<DB_HOST_NAME>:<DB_PORT>/
<DB_SCHEMA_NAME>;informixserver=<INFORMIX_SERVER_NAME>

DRIVER_CLASS_NAME : com.informix.jdbc.IfxDriver

- Tomcat アプリケーション・サーバーを再始動します。

WebSphere上にUnica Journeyを展開するためのガイドライン

#####V12.1.0.4#####WebSphere##Unica Journey#####WebSphere##Unica Journey#####
#####WebSphere@#####
#####WebSphere@##Unica Journey#####

- journey.war Fileをエンタープライズアプリケーションとしてデプロイします。journey.warファイルをデプロイする際、JSPコンパイラのJDKソースレベルがJava 18 for SDK 1.8に設定されており、JSPページが以下の情報に従ってプリコンパイルされていることを確認してください。

- WARファイルを参照・選択するフォームで、「**すべてのインストールオプションとパラメータを表示する**」を選択し、「**インストールオプションの選択**」ウィザードを実行するようにします。
- 「**インストール・オプションの選択**」ウィザードのステップ1で、「**JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル**」を選択します。
- **インストールオプションの選択**ウィザードのステップ3で、**JDK Source Level**がSDK 1.8の18に設定されていることを確認します。
- **インストールオプションの選択**ウィザードのステップ8で、**JourneyDS**を一致するターゲット・リソースとして選択します。
- **インストールオプションの選択**ウィザードのステップ10で、コンテキストルートを /journey に設定する必要があります (すべて小文字)。
 - Finishをクリックし、アプリケーションがインストールされるのを待ちます。
 - WebSphere Enterprise Applications で、**Your Application** を選択します (例: journey.war) 。

- Webコンテナの「**設定**」→「**Webコンテナ**」→「**セッション管理**」で、Cookieを有効にします。配置するアプリケーションごとに、異なるセッション Cookie 名を指定します。以下のいずれかの手順を使用して、Cookie 名を指定します。

- **セッション管理**の**[セッション管理を上書きする]**チェックボックスを選択します。Unica製品用に別々のWARファイルをデプロイした場合は、WebSphereコンソールの **[アプリケーション]** > **[エンタープライズアプリケーション]** > **[デプロイ済みアプリケーション]** > **[セッション管理]** > **[クッキーを有効にする]** > **[クッキー名]** セクションで、固有のセッションクッキーの名前を指定します。
- ポルトガル語など、非ASCII文字をサポートする必要がある場合や、マルチバイト文字を必要とするロケールでは、サーバー・レベルの**Generic JVM Arguments**に以下の引数を追加してください。

```
-Dfile.encoding=UTF-8
```

```
-Dclient.encoding.override=UTF-8
```

```
#####
```

```
-DENABLE_NON_PROD_MODE = true
```

```
#####Journey Web Home#####properties & config#####
```

```
-Djourney.web.home=<Journeys_Home>/Web/#
```

```
#####Java#####falseに#####
```

```
##### > ##### > Java##### > ##### > Java##### > ##JVM##.
```

```
#####
```

- サーバーの **[アプリケーション]** > **[エンタープライズ アプリケーション]** セクションで、デプロイした WAR ファイルを選択し、**[クラスの読み込みと更新の検出]** を選択して、次のプロパティを指定します。

- 中の **アプリケーション > エンタープライズアプリケーション** のセクションで、デプロイしたEARファイルまたはWARファイルを選択し、**[Class loading and update detection]** を選択して、以下のプロパティを指定します。
 - WAR ファイルを配置する場合:
 - **クラス・ローダーの順序** では、**[ローカル・クラス・ローダーで読み込まれたクラスを最初に (親を最後に)]** を選択します。
 - **「WAR クラス・ローダー・ポリシー」** では、**「アプリケーションの単一クラス・ローダー」** を選択します。
- WebSphere Enterprise Applications で **Your Application > Manage Modules > Your Application > Class Loader Order > Class loaded with local class loader first (parent last)** を選択します。 .
- アプリケーションの基本的な機能を実現するための推奨最小ヒープサイズは512で、推奨最大ヒープサイズは1024です。

ヒープサイズを指定するには、次のタスクを実行します。

1. WebSphere Enterprise Applications で®、 **Servers > WebSphere application servers > server1 > Server Infrastructure > Java and Process Management > Process definition > Java Virtual Machine** を選択します。 .
2. ヒープサイズの初期値を512に設定する。
3. 最大ヒープ・サイズを 1024 に設定します。

サイズ指定に関する詳細については、WebSphere の®ドキュメントを参照してください。

特定のウェブコンテナのカスタムプロパティを追加します。


1. サーバー > [サーバーの種類] > [アプリケーションサーバー] をクリックし、最初に作成したサーバーを選択します。
2. Webコンテナの設定 > [Webコンテナ] をクリックします。
3. [カスタムプロパティ] をクリックします。
4. 「新規」 をクリックする。
5. プロパティ値を入力します。

プロパティ	値
名前	com.ibm.ws.webcontainer.invokeFlushAfterService
値	False
説明	See http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg1PM50111


6. 「OK」 をクリックします。
7. 「保存」 をクリックします。




Note: WebSphereに展開する場合は、HTTPS証明書をインポートする必要があります。Journeyは Link and Deliverと統合されているため、これらのアプリケーションがHTTPSでデプロイされている場

 合、WebSphereアプリケーションサーバーにHTTPS証明書をインポートする必要があり、そうしないと JourneyはLink and Deliverにアクセスできなくなります。

SSL#####URL#####https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/en/SSEKCU_1.1.2.1/com.ibm.psc.doc/rs_original/installer/rs_t_import_client_cert_was.html

 **Note:** WebSphere で OneDB データベースを使用していて、OneDB の DB_LOCALE が en_us.57372 に設定されている場合、WebSphere コンソールでデータソースのカスタムプロパティのロケールを ifxDB_LOCALE ="en_us.57372" と ifxCLIENT_LOCALE="en_us.57372" にも設定してください。

- WebSphereを再起動する

 **Note:** プラットフォームが正常に起動したら、WebsphereサーバーでJourneyアプリケーションを手動で起動する必要があります。

- journey.war (Journey Application)のデプロイを開始します。

JBossにUnica Journeyをデプロイするためのガイドライン

V12.1 Fixpack 4#####JBoss##Unica Journey#####JBoss # Unica Journey #####
#####

JBoss #####HCL Enterprise Products Recommended Software Environments and Minimum System
Requirements #####Jboss # Unica Journey #####
#####

JBoss # Unica Journey

1. HCL EAR ファイルまたは unica.war ファイルをエンタープライズ アプリケーションとしてデプロイします。

```
## deploy <Journey_Install>\unica.war
```

Web Server Application # JBoss #####<https://docs.jboss.org/jbossweb/3.0.x/deployer-howto.html> #####

2. インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケール) は、以下のタスクを実行してください。

- a. JBOSS /binディレクトリの下にあるstandalone.confスクリプトを編集し、JAVA_VENDORに

```
-Dfile.encoding=UTF-8
```

```
-Dclient.encoding.override=UTF-8
```

```
-Djboss.as.management.blocking.timeout=3600
```

を追加します。

```
#####
```

```
-DENABLE_NON_PROD_MODE = true
```

```
#####Java#####falseに#####
```

b. JBOSS サーバーを再起動します。

3. Schedulerが正しく動作するように、以下のサブステップを完了してください。

- <JBOSS_HOME>/standalone/configuration/standalone.xml ファイルのバックアップを取ります。
- <JBOSS_HOME>/standalone/configuration/standalone.xml で、モジュール名から driver を検索してください。

```
<driver name="oracledriver" module="oracle.jdbc">
  <xa-datasource-class>oracle.jdbc.OracleDriver</xa-datasource-class> </driver>
```

- インストーラーはデータソースを更新しないので、手動でデータソースを設定する必要があります。
- <subsystem xmlns="urn:jboss:domain:ee:4.0"> の下に以下の記述を追加して、モジュール名をグローバルにします。

```
<global-modules> <module name="oracle.jdbc"/> </global-modules>
```

- JBOSS /binディレクトリの下にbin ディレクトリにあるseparator.conf スクリプトを編集して、Dlog4j.configuration = file:///<ドライブ_ロック>\Campaign_git_repo\AffiniumWebApps\Campaign\conf\campaign_log4j.propertiesを追加します。
- JBOSS サーバーを再起動します。
- Campaign でのジャーニーロギングに関連する log4j 1.x のログファイルは、campaign_log4j.properties 内の「log4j.appender.File.File=\${CAMPAIGN_HOME}/logs/campaignweb_unicacommon_1x.log」です。

Chapter 7. のアンインストールUnica Journey

```
Unica Journey #####Unica Journey #####  
#####Unica  
Journey #####
```

```
#####Unica#Uninstall_Product##### (Product####) #####Windows™#####  
#####
```

```
#####  
#####  
#####
```



Note: UNIX™の場合、Unica Journey をインストールしたのと同じユーザーアカウントでアンインストーラーを実行する必要があります。